

挫折の先にあったもの

奥本 奈緒

1. 教員を志したきっかけ

幼い頃から人と関わること、人の笑顔を見ることが好きでした。教員採用試験の合格通知を見た日に、短冊に母の字で書かれた「学校の先生になりたい」と書かれた七夕の写真を見つけました。自分で字を書くことすら出来ないほど幼い頃から教員という仕事に憧れを持っていました。

どんな教員になりたいか、具体的な理想を持ったのは中学3年生の頃に出会った担任の先生の影響で、厳しさの中に愛情を感じることができる先生でした。どんな時でも生徒の目線に立ち、時には厳しく指導されることもありましたが、困った時は必ず味方でいてくれたと今でもはっきりと覚えています。そんな先生の姿を見る内に、私も生徒の笑顔を作るために行動できる、困っている生徒の背中をそっと押してあげることができる教員になりたいと感じるようになりました、漠然とした教員像から少しずつ自分の中でなりたい自分が見つかるきっかけとなった素敵な出会いとなりました。

このようなきっかけから、明確な目標を持ち教員を目指すようになりました。ここからはそんな私が教員採用試験に合格するまでの道のりを伝えていきたいと思います。これから教員採用試験を受けようと考えている人、迷っている人の少しでも役に立てれば幸いです。

2. 教員採用試験合格に向けて

教員採用試験に向けて行動し始めたのは、大学3年生になったばかりの頃です。まずは情報収集から始め、必要な教科、必要な対策を調べました。私は大阪府を受験したのですが、大阪府は他府県とは違い、一般教養が無い代わりに数的処理があったため、その対策から始めました。

教職教養・数的処理・専門教科など勉強すべきことは膨大でしたが、一番苦戦したのはやはり、二次試験の個人面接でした。教員になりたいという気持ちは強くても、実際に自分の長所は何なのか、それを教育の場でどのように活かす事ができるのか、考えれば考えるほど分からなくなってしまい、そもそもこんな自分が教員になってもいいのかと思いつめるほどでした。そんな時は一緒に教員採用試験を受ける友達と集まりお互いの長所を言い合い、その活かし方を考えました。

模擬授業練習会も有意義な時間でした。自分には考えつかないような授業をしている同級生の存在を知り、自らのモチベーションに繋がりました。周りのみんなに負けられないようにできる限り完成度の高いものに仕上げようと奮闘したことが、二次試験での模擬授業に役立てる事ができました。

3. これから教員採用試験を受けるみなさんへ

これから教員採用試験を受けるみなさんに伝えたいことが2つあります。

1つ目は一緒に頑張る事ができる仲間を見つけることです。やはり教職課程をとっていると、とっていない友達とはどうしても疎遠になってしまいます。実際私もそうでした。しかし自治体は違いましたが、一緒に頑張ることのできる友達を見つけ、お互いがお互いのモチベーションとなり続けました。受験は個人戦だと考えていましたが、その子の存在がなければ合格することも教員免許を取ることもすらできなかったと思います。そのため、みなさんにも1人でも支え合える友達を見つけて欲しいと思います。

2つ目は何があっても自分を信じ続けることです。題名にしている「挫折の先にあったもの」の通り私は教員採用試験までに多くの挫折をしています。大きな挫折といえば、高校受験、大学受験どちらも不合格で第一希望の学校に通っていません。大学受験に不合格だった時の感覚は今でも忘れられません。そのため受験というものに少なからずトラウマがあり、努力すれば必ず報われるわけでは無いということを私は知っています。どれだけ勉強しても点数が上がらなかった時、すぐに大学受験の合格発表日のことを思い出してしまっていました。それでも、必ず合格する、絶対に卒業して春から先生になるんだという強い気持ちを持ち続けました。挫折を経験したおかげで自分の中の甘えや油断を全て無くし、真摯に教員採用試験というものに向き合う事ができました。きっと大きな挫折の先だったからこそこの結果を掴む事ができたのだと思います。

最後に教員免許を取ることは卒業単位以上多くの単位を取る必要があります、朝も早く帰日も遅く大変だと思います。私も大阪から通っていたため苦しい時期がありました。しかし教育実習で私の授業を真剣に聞いてくれ、生徒が言ってくれた「先生なら素敵な先生になれます」「初めて国語の授業が楽しいと思えました」という言葉に救われ、これまでの頑張りが報われた気がしました。苦しいこともあると思いますが、いつか頑張って良かったと思える時は必ず来ます。これから教員採用試験を受けるみなさんが素敵な結果となることを願っています。